

寺だより

23/12/26
第113号

真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

人生思い通りにならないことばかり

そのことが

私に大切なことを

気づかせてくれる

人間の世の中は、なかなか私の思うようにはなりません。日々、事件が起こり、事故が起こっています。今年5月の奥能登地震では、珠洲市は、甚大な被害を受けました。おとりこしで門徒さん宅のお内仏にお参りさせていただきましたが、どのお宅も大変な状況でした。「日本は地震国である」と昔から言われ、昨年も珠洲では大きな地震があり被害が出ました。それでも、十分な準備はできなかったのです。人類の知恵には限界があり、予期せぬ出来事を避けることはできません。

新美南吉の童話に『でんでんむしのかなしみ』があります。こんなお話です。

「ある日、でんでんむしは『自分の殻の中には悲しみしか詰まっていない』ということに気付き『もう生きていけ

ない』と嘆く。そこで別のでんでんむしにその話をするが『私の殻も悲しみしか詰まっていない』と言い、また別のでんでんむしも同じことを言った。そして最初のでんでんむしは『悲しみは誰でも持つている。自分の悲しみは自分で堪えていくしかない』と嘆くのをやめた。」



悲しみを背負っていてもこらえて生きていかなければならないと悟ったのでんでん虫はその後どうなったのでしょうか。「誰も、悲しみを背負っている。」と納得しても、自分の殻の中の悲しみに押しつぶされそうになることもあったことでしょう。

それでもでんでん虫は、悲しみや苦しみを乗り越えた向こうに、自分の中にしっかりとした生き甲斐や、喜びを手に入れたことと思えます。

生きていると、沢山の悩みや悲しみが出てきます。大事な方と喧嘩をしたり、仕事が上手くいかなかったり、自身や大切な人が病気になるたり等辛く悲しいことは誰もが抱えています。しかも、人と代わることは出来ず、自分が抱えて行くしかないのです。

けれども、悲しみや苦しみをこらえ続けるその向こうに、他の人を思いや

る優しさが生まれます。悲しみや苦しみを経験すると、辛い思いをしている人にきつと寄り添うことが出来ます。思い通りにはならない現実こそが、実は私を歩ませ、私を促しつつつけている。そう思うことです。

除夜の鐘のご案内

おのみそか
大晦日の夜、寺々でつかれる除夜の鐘の音を聞きながら、過ぎ去った一年を思い、新しい年への期待を込めるのが日本人の習慣となっています。

『除夜』とは、『古い一年を除いて新しい年を迎える夜』という意味で、大晦日の夜のこと。鐘の音は、仏さまの清らかな声とそのみ教えといただきま

す。西光寺では、午後11時50分頃から、つき始めます。

どなたでもご参加いただけます。一回つくとに、「飴ちゃん」をお配りしています。「飴ちゃん」は一〇八個用意しています。



除夜の鐘 2023/1/1

第二回本堂修繕実行委員会報告

12月17日(日)第二回本堂修繕実行委員会を開催し、本堂復興費予算について検討しました。

本堂復興費概算について

① 自己資金 一、〇〇〇万円

※住職懇志金・総代等特別懇志金

地震見舞金・共済金等

② 借入金 二、〇〇〇万円

※借入金の返済については、門徒さんにご懇志をお願いする。ご懇志の金額・志納方法等については、令和六年度護持委員会(令和6年1月28日予定)で決定する。

また、門徒さんの負担を軽減すべく、クラウドファンディングを行う(令和6年2月実施予定)。

本堂復興概要について

① 傾いた本堂を建て起こし、耐震工事をを行い、地震等自然災害に強い建物にする。

② 御本尊阿弥陀仏木像を修復する。

③ 宮殿・厨子等の修復を行う。

④ 破損した仏具等を修復あるいは新調する。

⑤ 本堂の復興を通して伝統的な寺院建築技能を継承する。

⑥ 西光寺には歴史的・文化的な要素が集積しており、先人の歩みを残す貴重な資産として修復を通して後世に継承する。

※現在の西光寺本堂は、約四百年前、越前の国より運ばれ建立

※蓮如上人ゆかりの寺・西光寺(へんじや御書様・へんじや参り)

※絹本著色親鸞聖人絵伝蔵(珠洲市文化財)

⑦ お寺が本来持っていた機能を改めて見直し、開かれた寺院のあり方を求める

本堂復興に際して

本堂復興に際して、住職自身が問われたのは、「なぜご門徒さんも被災している中、修復修繕をしてまでお寺を維持しなければならぬのか」ということでした。

しかしながら、長い歴史の中でお寺というものが、どのような存在だったのかを深く考えたときに、やはりそこには多くの方が生きる拠り所として集まる「場」であったというところに存在意義があり、

今日まで存続されてきたのだと思います。

未来に向けて、門徒皆様のそして地域のお寺として、そして皆様が集う「場」となるようなお寺として維持存続できますよう、そして、故郷への想い、子どもたちへの想い、未来への想い、そんな想いを形にする「旗印」になればと思っています。

おかげさまで

西光寺報恩講 無事勤まる!!

11月6日(火)

8日(木)の三日間にわたり、ご講師に、諸岡敏先生をお迎えして、広間にて報恩講をお勤めしました。

本堂が使えないので、例年と比べ

簡素化された報恩講でしたが、三日間暖かく天候にも恵まれて多くのご門徒さんにお参りいただきました。

ご講師の法話は、おもしろく、聞き



お話は諸岡敏先生

ないかと感じています。報恩講を通して、慌ただしい日常生活から少し離れ、先祖や家族、自分の生き方を考え、見つめる機会をいただきました。



部屋を暗くして御伝鈔拝読

分の力で生きていられると思っていたことが、実は色々なご縁によつて生かされていたのだと、あらためて気付かされました。「ありがたいことです」と感謝し、日々生きていくことに、幸せな人生を送ることのできる道があるのではないかと感じています。

報恩講を通して、慌ただしい日常生活から少し離れ、先祖や家族、自分の生き方を考え、見つめる機会をいただきました。

報恩講が終わるといよいよ年の終わりを感ずるようになります。来年もまた多くの方のお参りをお待ちし



皆さんと正信偈唱和

やすく、そして何よりも参詣者の方も時にはうなづきながら笑いながら真剣に聞き入っておられました。ご法話をいただきながら、「今」

ております。

令和5年度 報恩講志納報告

ローソク料	950,500円 (1,000,000円) 259戸 (274戸)
賽 銭	13,100円 (30,251円)

* () は一昨年度

ローソク料・賽銭は、全額西光寺一般会計に入れ、西光寺の維持運営費や永代経や報恩講の法座開催費等に使用させていただきます。決算につきましては来年度護持委員会で承認後、寺だよりで報告します。

御懇志ありがとうございました。

おとりこし終わる

10月11日(水)、岩坂町からスタートしたおとりこしは、12月22日(金)、正院町今町で最終日を迎えました。年に一度のおとりこし。今年も、門徒さん一軒一軒のお内仏にお参りすることができました。ありがとうございました。親鸞聖人の教えを喜んでこられた先達のお心を大切にさせていただきます。ら、お参りさせていただきます。なお、蛸島地区は来年二月、本江寺地区は三月に予定しています。

修正会(しゅしようえ)のご案内



修正会・2022年1月1日

午前零時より、新年最初のお勤め、修正会を行います。本堂は修復工事に入りましたので、広間の方にてお勤めを行います。お参りの方は、玄関よりお入りください。

新たな年を迎えて、仏恩報謝の思いを持つて仏さまの前で身と心を正し、あらためて自分自身を見つめ直し、一年を歩み出す新年最初の仏事です。真夜中ですが、鐘つきに、そして修正会にお参りしませんか。

令和5年 年頭挨拶交換のお知らせ

例年通り、一月一日午前六時より、「食い積み(蓬菜)飾り」を準備したお台子(客間)で年頭の挨拶交換を行います。本堂工事中ですので、

年頭挨拶交換の部屋(客間)横の玄関よりお入りください。



2024年度(令和6年) 年回法要一覧表

没年	年回忌	没年	年回忌	没年	年回忌
昭和50年(1975年)	<u>50回忌</u>	平成4年(1992年)	<u>33回忌</u>	平成21年(2009年)	16
昭和51年(1976年)	49	平成5年(1993年)	32	平成22年(2010年)	15
昭和52年(1977年)	48	平成6年(1994年)	31	平成23年(2011年)	14
昭和53年(1978年)	47	平成7年(1995年)	30	平成24年(2012年)	<u>13回忌</u>
昭和54年(1979年)	46	平成8年(1996年)	29	平成25年(2013年)	12
昭和55年(1980年)	45	平成9年(1997年)	28	平成26年(2014年)	11
昭和56年(1981年)	44	平成10年(1998年)	<u>27回忌</u>	平成27年(2015年)	10
昭和57年(1982年)	43	平成11年(1999年)	26	平成28年(2016年)	9
昭和58年(1983年)	42	平成12年(2000年)	25	平成29年(2017年)	8
昭和59年(1984年)	41	平成13年(2001年)	24	平成30年(2018年)	<u>7回忌</u>
昭和60年(1985年)	40	平成14年(2002年)	<u>23回忌</u>	令和元年(2019年)	6
昭和61年(1986年)	39	平成15年(2003年)	22	令和2年(2020年)	5
昭和62年(1987年)	38	平成16年(2004年)	21	令和3年(2021年)	4
昭和63年(1988年)	37	平成17年(2005年)	20	令和4年(2022年)	<u>3回忌</u>
平成元年(1989年)	36	平成18年(2006年)	19	令和5年(2023年)	<u>1周忌</u>
平成2年(1990年)	35	平成19年(2007年)	18		
平成3年(1991年)	34	平成20年(2008年)	<u>17回忌</u>		

II 編集後記 II

「人身受けがたし、今すでに受く」

お釈迦様の言葉です。人身とは私たちが人間のことです。「なかなか生まれることが難しい人間として生まれることができてよかった!」という意味です。お釈迦さまは、ガンジス河のほとりに立たれ、遙かに流れる河を見渡しながら、どこまでも続く川辺にある無数の砂の数を、あらゆる生命体の数に例えられました。そして、その砂を手にするの、これほどの数しかないのだということ示されました。命をいただくことは、とても稀なこと。そのうえ、人としての命をいただくことは、さらにさらに稀なこと。

このいのちとは、当たり前ではなかった。そう気付かされる時に、このいのちの尊さやありがたさを知らされ、大切に生きようとする思いにもなるのではないでしようか。

本年も大変お世話になり、ありがとうございます。来年もよろしくお願ひ致します。どうぞ、良いお年をお迎えください。

南無阿弥陀仏